



健康と温泉フォーラム 第58回月例研究会のご案内

- 主催：NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会
NPO法人日本スパ振興協会
- 日時：2015年12月22日(火) 13:30~16:30
(受付13:00から)
- 会場：東京文化会館4階会議室 (JR上野駅公園口前)
- テーマ：シリーズ「温泉地再生の現状を探る」④
「文化とはムダと隙間でできている
—お宿が地域文化創造に寄与するために—」
- 講演者：松坂 健



(跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授 文芸評論家 (ミステリー))
1949年東京・浅草生まれ。慶應義塾大学法学部と文学部卒業(実は特殊中国語学部卒)。1974年出版社柴田書店入社、月刊食堂副編集長を経て、1984年から93年、月刊ホテル旅館編集長。94年以降、様々な経営専門誌に寄稿、講演会、研究会活動など。2001年長崎国際大学国際観光学科教授。2004年西武文理大学教授を経て、今年より現職。

主な著書に

『食ベンチャーのキーワード』『ホスピタリティ進化論』など。なお、ミステリ専門誌ハヤカワミステリマガジンには二十年以上寄稿しています。ミステリの蔵書数、洋書1万冊弱含め、約3万冊。

■ 講演レズメ

地域再生の呼び声が高い昨今です。しかし、官製の地域文化創造の掛け声の中で、何が生まれるでしょう。かつて、三島由紀夫は1970年代以降の日本が誤れる文化創造(それは経済主導のもので行われると彼は予測、的中した)の危うさについて、こう語っていたのを思い出します。

「文化とは何だ。それは不朽の花を育てることである。しかして、不朽の花とは何か。それは造花に他ならない」三島にとって、経済万能の中で生まれる文化は、コンクリートに厚化粧の造花的な文化としか思えなかったようです。

今、温泉地も遅ればせながら、地域起こしのコンテンツに「文化」を加えつつありますが、何か置き忘れていたものがあるような気がしてなりません。ここでは僕なりに、温泉地が本当に造花ではない文化創造に貢献するためには何をすべきか、考えてみたいと思います。その答えは〇〇〇〇にあります。このようなフォーラムに参加する諸先生なら誰でも知っている実に簡単な四字熟語ですが、これを僕なりに解説していきます。



■プログラム (予定)

1300	受付
1330~1445	講演
1445~1500	休憩
1500~1600	ディスカッション 質疑
1600~1630	まとめ 閉会

■定員 40名

■参加費 2,000円 (健康と温泉フォーラム、地域活性学会、日本スパ振興協会各会員)
3,000円 (一般) 当日受付でお支払いください。
無料 (学生・報道)

■お申込み・お問い合わせ

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mailまたはFAXにてお申込みください。定員先着40名とさせていただきます。

E-mail info@onsen-forum.jp TEL&FAX 03-6804-8575

E-mail info@onsen-forum.jp Fax 03-6804-8575

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 (各□に✓をお願いします)

第58回月例研究会 (2015年12月22日 (火)) に出席します。

●お名前 (複数可)

●団体名

●住所 〒

●連絡先 TEL
E-mail

FAX
携帯☎